

コロナ社会対応ビジネスモデル創造事業補助金実績報告（公開用）

令和3年2月28日

項目	内容
事業者名	会社名：丹後織物工業組合 代表者職名・氏名：理事長 今井英之
補助事業テーマ	With コロナ時代に対応する「オンライン・オープンファクトリー」等デジタル新技術を駆使した持続可能ビジネスモデル創造事業
事業実施期間	令和2年10月12日 ～ 令和3年2月28日
事業の目的	<p>① デジタル新技術を駆使した新たなビジネスモデル構築</p> <p>② オンライン商談に向けた事業者のスキルアップ、IT環境整備</p> <p>③ オン/オフラインで共有できる商談スペースの確保</p> <p>④ デジタル新技術（VR）を活用した情報発信</p>
事業の実績(成果)	<p>① オンライン商談会と連動させたWEBアーカイブ及びスワッチ請求システムを構築し、国内向け、海外向けのオンライン商談会を各1回、11社の参加のもと開催した。地理的不利、そしてコロナ禍でリアルな商談が難しい状況を十分克服できる手ごたえを感じる取組となった。</p> <p>② 事業者によってITスキルの習熟度、SNSによるプレゼンカ、さらには各事業所のIT環境に差があるなかで、それぞれ専門家による研修会を開催し、スキルアップを図った。今後のオンライン商談会、また各社が独自にシステムを活用し商談できるレベルとなった。</p> <p>③ 生地の画像、動画をランディングページへ掲載するための撮影スタジオ、オンライン商談を成約に導くための商談スペースの場を設置。</p> <p>④ 普段見ることができない製造現場を、VRというデジタル新技術を活用し公開できるようにしたことで、パソコン、スマホなどから容易に閲覧でき、バイヤーも含め多くの一般消費者へ産地情報を発信することが可能となった。</p>
今後の展望	<p>・WEBアーカイブシステムは、事業者の追加はもとより各事業者の生地情報を際限なく追加できるシステムとなっており、次年度以降も継続してオンライン商談会の開催を予定している。</p> <p>・レベルの高い丹後の織物産業の魅力を、地域の魅力と共にオンラインを通じて伝えることで、オンラインクラフトツーリズムという形で地域ファンをつくり、コロナ収束後の誘客、交流人口の増加による地域全体への波及に繋げていくことも今後の展開として検討を進める。</p>



商談風景